

第6学年 社会科学学習指導案

に組 男子18名 女子18名 計36名

指導者 鮫島 純二

1 小单元 天下統一に向けて活躍した人々

2 小单元について

(1) 小单元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに、源氏と平氏を中心とした武士の世の起こりや武士による政治について調べる学習や武士による文化の特色を調べる学習を通して、それまでの時代の貴族に代わり源氏や足利氏が幕府を開いて政治を行うようになり、全国的に武士の勢力が強まってきたことをとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、その後の武士の様子に関心をもち、群雄割拠の戦国の世が統一されていった様子に関心をもち、活躍した武将を中心に追究したいという意欲が高まってきている。

そこで、本小单元では、戦国の世の中で天下統一に向けて活躍した織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三人の武将の生涯や業績を中心に追究していく活動を通して、武将たちが行った諸政策や戦によって、全国各地の諸大名の勢力を抑え、武士による政治の安定を目指したことをとらえさせようとするものである。また、写真や絵図、年表等を活用し、天下が統一されていく様子と三人の武将の果たした役割や働きとを関係付けて考える力や、それを分かりやすく説明する力を高めながら、我が国の歴史や伝統に関心をもたせたり、それらを大切に育てたりしようとするものである。

このような学習は、大名や庶民に対する厳しいきまりや身分制度、鎖国等を確立した江戸幕府の政治、そのような中で隆盛してきた文化や学問について追究する学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

尾張の小大名の一族であった織田信長は、桶狭間の戦いで今川氏を破って以降、戦国大名としての名を広め急速に領地を拡大していく。信長は天下布武の考え方のもと、戦い方を工夫して勢力を広げるとともに、楽市楽座や仏教勢力の弾圧等、伝統的な政治や経済の秩序を克服して室町幕府を倒し、支配体制を固めていった。そのような中、家来の明智光秀に倒される。信長の有力家臣であった豊臣秀吉は、その明智光秀を倒し、約8年足らずで各地の戦国大名や一向宗などの勢力を抑え全国を統一する。その後、太閤検地や刀狩令などの政策で武家奉公人、町人、百姓などの身分を確定させ、武士が世の中を支配する社会の仕組みを整えた。また、朝鮮侵略も企図し、2度出兵させるが失敗に終わる。徳川家康は、信長と連合したり秀吉の臣下となって活躍したりし、秀吉の死後は多く大名を味方に付けて関ヶ原の戦いを制し、全国支配を確かなものにした。その後、征夷大將軍に任ぜられ、江戸幕府を開き、幕藩体制の基礎を築いた。

そこでここでは、戦国の世の中が統一されていったことをよりよくとらえさせるために、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三人の武将の天下統一について追究させるようにする。その際、豊臣秀吉と各地の戦国大名との関係についての学習内容を取り上げ重点化することで、島津氏や北条氏といった有力な各地の戦国大名への秀吉の対応や処遇から、天下統一に向けた各地の戦国大名の用い方についての価値的知識を獲得させるようにしていく。

そのためにまず、「天下餅」や「ホトトギスの歌」のエピソードを基に、三人の武将が天下統一に深く関わっていることに気付かせるとともに、3人についての人柄や関係性、役割などに着目させ、戦国の世が統一されていくことについての問題意識と追究意欲をもたせていきたい。

次に、一人一人の予想を基に、自分なりの見方や考え方を生かした追究計画を立てさせ、年表や絵図等の資料を基に天下統一までの過程、三人の武将同士の間を構造的に示したり、年表に整理・再構成させたりして歴史新聞等にまとめさせる。さらに三人の武将の政策や業績を評価させる討論的活動を行わせることで、天下統一に対する見方や考え方をさらに高めようとするものである。

このような学習を通して、戦国の世の中が次第に統一されて武士による政治が安定する様子について分かる喜びを味わいながら、我が国の歴史や伝統への関心や理解を深めていくことになる。

(3) 子どもの実態（調査人数 35名 質問紙法、重複回答、主な項のみ記述）

1	織田信長の行ったこと・考え方 本能寺の変(8)、樂市・樂座(7)、安土城建築(5)、 鉄砲の活用(4)、関所の廃止(3)、家康との連合(2)
2	豊臣秀吉の行ったこと・考え方 太閤検地(6)、明智光秀を倒す(5)、織田信長の家来(4)、 刀狩(4)、朝鮮侵略(4)、大阪城建築(2)、キリスト教禁止(2)
3	徳川家康の行ったこと・考え方 関ヶ原の戦い(7)、江戸幕府の開府(4)、大坂の陣(3)、 信長との連合(2)、征夷大將軍(1)
4	三人の武将以外の戦国大名 島津氏(6)、武田信玄(5)、上杉謙信(5)、伊達正宗(4)、 北条氏(4)、毛利元就(3)、今川義元(3)、真田幸村(3)
5	天下統一と鹿児島との関係 島津氏の支配(6)、戦乱状態(5)、平和な暮らし(2)、 ザビエル来鹿(1)、鉄砲伝来(1)、沖縄の支配(1)
6	この時代で学習したいこと 三人の武将の業績、性格(17)、三人の武将の関係(8)、 3人以外の武将(7)、戦いの様子(6)、有力武将の考え(3)、 鹿児島の様子(3)、年号・時代区分(3)、出来事(2)
7	資料活用力 地図…立地条件(15)、分布(14)、運輸関係(9) 写真…現地生産(19)、人+機械(6)、機械(6)、組立工程(5) 絵図…比較による時代の差異点(30)、時代の共通点(31) グラフ…需要と供給(関連付け)(19)、最盛期(8)、増減(6) 年表…出来事(28)、期間(21)、経緯の概観(15) 実物…比較による用具の差異点(34)、用具の共通点(30)

この学級の子どもたちの三人の武将についての見方や考え方は、次の通りである。

子どもたちは、三人の武将についてその存在を多くは関心をもち理解していたが、各武将の業績や考え方についてとらえている子どもは少数であり、混同している事柄もある。これまでの経験から、名前だけは聞いたことがあるという状況であることが考えられる。しかし、それに対する関心や追究の意欲は約半数の子どもに見受けられる。また、この時代に活躍した他の武将については、一部の子どもが幅広く列挙しており、歴史上の人物の認知に偏りが見られる。これは、歴史に興味のある少数の子どもが、図書やテレビ等で知識を得ているためであると考えられる。そして、この時代の鹿児島の様子については、ほとんどの子どもは知識がないため、鹿児島で活躍した武将の名前や当時の状況、三人の武将との関係性についてとらえている子どもは少ない。資料活用の面から、比較や関連付けといった思考の方法は、多くの子どもが身に付けており、これまでの学びの成果を生かしているものと考えられる。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえて、指導に当たっては、次のようなことに留意したい。

単元の追究過程においては、「信長の業績や考え方」「秀吉の業績や考え方」「家康の業績や考え方」という柱を立て、これまでの学び方を生かしながら、天下統一に向けて三人の武将の果たした役割やその時代への影響などについて主体的に追究させていく。また、「三人の武将と戦国大名との関係」という学習内容を取り上げ、天下統一に向けて三人の武将が他の大名らを従えるためにとった行動を追究させる。そして、その対応や処遇について価値判断させていくことで、天下統一の事業をよりよくとらえさせる学習を展開できるようにする。

ア まず、三人の武将の役割や性格を例えた「天下餅」「ホトトギス」の絵図や歌を基に、天下統一に向けての三人のつながりや働き、性格について違いがあることに気付かせる。そして、そのことから三人の業績や役割について考えさせ、「三人の武将はどのようにして天下統一を進めていったのだろうか。」という問題意識をもたせたい。そして、その子なりの予想を表出させながら追究計画を立てさせ、自分なりの考えを基に見通しをもって追究させていきたい。

イ 戦国の世の中が統一されていく様子を明らかにしていくために、それぞれの段階で、「天下統一と鹿児島との関係」を扱う学習内容を取り上げ、天下統一を多面的に見ることができるようにしていく。そこでまず、長篠の戦いや安土城と城下町の絵図、南蛮貿易、鉄砲やキリスト教の伝来の資料を基に、信長の天下統一事業についてとらえさせる。その際、鹿児島が窓口になり深く関わっていることについて触れる。次に、太閤検地や刀狩の絵図、朝鮮出兵の資料を基に秀吉の天下統一事業をとらえさせる。その際、秀吉と島津氏をはじめとする各地の戦国大名との関係を追究させる学習を基に、天下統一を進める武将たちが、諸戦国大名をどう抑えていくべきかを価値判断するために、秀吉が行った処遇や対応を価値的知識として獲得させる。さらに、関ヶ原の戦いや大名配置図等の資料を基に、家康の天下統一についてとらえさせる。その際、関ヶ原の戦いでの島津氏の活躍や大名配置を取り上げて、家康と島津氏との関係をとらえさせていきたい。

ウ 単元の終末において、これまでに追究したことを基にして、3人の武将の業績等を評価して、推薦書を書く形で価値判断し、判断した理由を吟味し合う活動を設定する。その際、追究時に用いた資料やまとめたことを基に、根拠を明確にした判断であるかを吟味させたり根拠と主張の整合性を吟味させたりする。そして、自己の価値判断の変容を振り返らせ、戦国の世の中に対する見方や考え方を深め、広げさせていきたい。

3 単元の目標

- (1) 群雄割拠の戦国の世の中が、織田信長や豊臣秀吉、徳川家康の政策により統一されていく過程について関心を持ち、時代の様子や人物の働きについて意欲的に追究することができる。
- (2) 信長や秀吉、家康の政策と三人の考え方を関係付けて天下統一に向かう様子を調べたり、三人の武将と各地の大名との関わりについて調べたりしたことを説明することができる。
- (3) 自分の調べたことや考えたことを明確にしていくために、資料や年表等を活用して人物の業績を読みとったり、天下統一に向けて行った諸政策について分かったことを図表や絵図にまとめたることができる。
- (4) 信長や秀吉、家康が全国統一に果たした役割や、戦国の世の中が統一されていく様子を理解することができる。また、全国各地の大名の三人の武将に対する関係を理解することができる。

4 指導計画 (全7時間)

学習過程	主な学習活動	子どもの思考の深まり	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる	1 「天下餅」「ホトトギスの歌」の絵や歌を見ながら、三人の武将の天下統一の様子について話し合い、疑問に思ったことから学習問題を設定する。 三人の武将によって天下統一はどのように進められていったのだろうか。	三人の武将は、どんなことを行っていたのだろうか。そして、どんな性格なのだろうか。	◎ 絵図 (天下餅とホトトギスの歌) ○ 天下統一に3人が深く関わったことに気付かせるとともに、三人の業績や人柄に対する問題意識を高めさせるために、歌の例えを自分なりに予想させる。
	2 学習問題に対する予想をし、調べる内容や方法の計画を立てる。 〔追究の柱〕 ○ 信長、秀吉、家康の政策や考え方 ○ 3人の武将の関係 〔調べる方法、資料〕 ○ 教科書、資料集、年表等	信長、秀吉、家康の間には、どのような関係があり、どう影響し合っていたのだろうか。 鉄砲やキリスト教は鹿児島(種子島)にまず伝わり、全国に広がっていったのだな。それにより、世の中の様子が変わっていったのだな。	◎ 絵図 (長篠の戦)、年表 (信長の生涯) ○ 信長が勢力をもち、領土を広げていったことをとらえさせるために、戦い方や回数、その期間を読み取らせ、短期間で周囲を平定していったことを考えさせる。 ◎ 絵図 (安土城と城下町の様子) ◎ 写真 (南蛮貿易の様子、南蛮寺) ○ 信長が、経済的基盤を整えたり、軍事力を高めたりしたことをとらえさせるために、まちづくりや貿易などの事実を関係付けて、新しい考えを取り入れた政策を進めたことを考えさせる。
調べる	3 織田信長の政策や考え方について調べ、話し合う。 天下布武 【軍事】 鉄砲、宗教勢力制圧、キリスト教の保護 【経済】 都市直轄、楽市・楽座、関所廃止 【交通】 城下に通じる道路、橋の整備	信長は、「天下布武」の考え方のもと、新しい考えを取り入れて、天下統一を進めていったんだな。武力による支配が中心だったんだな。	◎ 絵図 (太閤検地の様子、刀狩) ○ 秀吉の勢力がより強固なものになった理由をとらえさせるために、農民に対して実施した政策の内容とその結果とを関連付けて、秀吉のねらいを話し合わせる。
	4 豊臣秀吉の政策や考え方について調べ、話し合う。(本時) 秀吉の権威 (天下に号令できる根拠) 関白就任、太政大臣 (豊臣姓) 【太閤検地】 税収の確保 【刀狩】 身分の固定化 【経済基盤】 都市、鉱山直轄 【大名の処遇】 勢力分散、滅亡 朝鮮出兵と失敗 ← 天下統一	秀吉は、信長の後を受け継ぎ、検地や刀狩など農民を統制して経済的基盤を整えていったんだな。 秀吉は、全国の大名を統制するために、討伐を行ったり、服属させて利用したりしたんだな。	◎ 年表 (秀吉の天下統一過程) ◎ 地図 (各地の戦国大名の勢力図) ○ 有力な大名が各地に存在していながらも、秀吉が短期間のうちに天下統一できた理由に対する問題意識を高めさせるために、各地の大名の位置・勢力と秀吉の征服のための動向とを比較させ、感じた疑問を話し合わせる。
まとめる・広げる	5 徳川家康の政策や考え方について調べ、話し合う。 関ヶ原の戦い勝利→征夷大將軍 農民統制 → 江戸幕府の開府 → 城下町開発 大名統制 → 武家社会の確立 → 大坂の陣	九州征服目前だった島津氏は、秀吉との戦いの後、服属する道を選び、領土を安堵されたんだな。 家康は、信長や秀吉の業績を最終的に引き継ぎ支配を強め、天下統一を果たしたんだな。	◎ 地図 (小田原攻めの様子) ○ 秀吉が全国の大名を従えることができたことをとらえさせるために、北条氏や伊達氏の行動と秀吉の処遇を比較させ、違いを基に、秀吉の大名を統制する意図を話し合わせる。
	6 3人の武将の業績や人物像を評価して推薦書を書き、価値判断する。 三人の武将それぞれの活躍や三人のつながりによって天下統一がなされていった。	自分なら、三人の武将を政策や考え方、人柄などで評価すると、どうなるかな。統治者として最もふさわしいのは、誰だろう。	◎ 写真 (豊臣秀吉と島津義久の像) ○ 九州で勢力を誇っていた島津氏が秀吉側との戦いを経て、最終的に秀吉に降伏する形で領地を認められたことをとらえさせるために、2人の坐像の様子を比較させて、両者の力関係について考えさせる。 ◎ 絵図 (関ヶ原の戦い) ◎ 図 (幕府組織図、武家諸法度) ○ 家康が江戸幕府の基礎を固めたことをとらえさせるために、仕組みや法を通して、島津氏をはじめ、諸大名とどう関係を築き統制していったのかを考えさせる。 ○ 三人の武将の政策や考え方について分かったことを基に評価し、天皇に対する統治者としての推薦状を書かせ、お互いの判断を吟味し合う。とともに、学習のまとめをする。

5 本 時 (4 / 7)

(1) 目 標

豊臣秀吉が、全国各地の戦国大名に対して行った処遇を比較しながら調べ話し合う活動を通して、天下統一のために秀吉との関係や地理的条件、勢力などを考慮して、諸大名を統制していったことを理解させる。

(2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、秀吉が北条氏と伊達氏に行った処遇とを比較させて、各大名の秀吉との関係や勢力、地理的な条件などが考慮されているという事実をとらえさせる。そして、それを基に、九州の島津氏の処遇を考えさせる学び合いの場を設定し、秀吉の考え方の適用を図る。

(3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ												
具 体 化 問 題 の 追 究 計 画	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 秀吉は、なぜ、全国の戦国大名を従えることができたのだろうか。	(分) ↑ 7	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 絵図 (明智光秀肖像画) ㊦ 地図 (全国各地の戦国大名勢力) ○ 秀吉が全国の戦国大名をどのように従えていったのかという問題意識を高めるために、織田信長が倒された後、明智光秀を戦により倒した事実と有力な戦国大名の勢力に着目させ、支配の方法を話し合い、予想する。 												
	2 学習の進め方や資料について話し合う。 ○ グループによる話し合い→全体での話し合い ○ 教科書、資料集など	* ↓ 30	* ↓ 8	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 地図 (小田原攻めの様子) ㊦ 年表 (北条氏の動き) ○ 秀吉に対して反抗的な態度であった北条氏に対する秀吉の処遇についてとらえさせるために、北条氏の動きや対応を基に、秀吉に城攻めを受けて降伏した後、関係者を切腹させたり領地を没収したりしたことをおさえるとともに、そこまで行った理由について話し合わせる。 											
3 秀吉が行った諸大名への処遇について話し合う。 (1) 北条氏と伊達氏の関係について (2) 島津氏の関係について	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 写真 (伊達正宗像) ㊦ 年表 (伊達氏の動き) ○ 東北地方の大部分を手中に収めていた伊達氏に関する秀吉の処遇についてとらえさせるために、伊達氏の動きや対応を基に、伊達氏が秀吉側の兵力を考慮して服属する道を選んだことを話し合わせる。 ○ 秀吉が考慮した処遇の観点をとらえさせるために、「処遇の仕方は何が決め手になっているのだろうか。」と問い、北条氏の場合と伊達氏の場合を比較させて、考え方の共通点を話し合わせる。 														
追 究 問 題 の 究 明	<p style="text-align: center;">豊臣秀吉の動向</p> <p style="text-align: center;">北条氏 ← 豊臣秀吉 → 伊達氏</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>関東地方</td> <td>位置</td> <td>東北地方</td> </tr> <tr> <td>関東5か国</td> <td>勢力</td> <td>東北征服</td> </tr> <tr> <td>敵対関係</td> <td>関係</td> <td>独立関係</td> </tr> <tr> <td>徹底抗戦</td> <td>態度</td> <td>配慮、慎重</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">抵抗・討伐 ← 比較 → 服属・利用</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">地理的な条件、秀吉との関係、 各自の勢力など</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">島津氏の場合</p> <p style="text-align: center;">九州征服目前 ← 秀吉らの征伐 →</p> <p style="text-align: center;">↓ [降伏]</p> <p style="text-align: center;">領国安堵、朝鮮出兵</p>	関東地方	位置	東北地方	関東5か国	勢力	東北征服	敵対関係	関係	独立関係	徹底抗戦	態度	配慮、慎重		<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 地図 (九州地方における島津氏の勢力) ㊦ 写真 (豊臣秀吉と島津義久の像) ○ 秀吉の全国の戦国大名に対する処遇について一般化した見方や考え方を適用するために他の戦国大名の場合と比較させるようにする。その際、当時の郷土の歴史的事象への関心を深めさせるために、島津氏の動向を基に、降伏したことで領土を安堵される処遇が秀吉にとってどんな意味をもつのかを話し合う。
関東地方	位置	東北地方													
関東5か国	勢力	東北征服													
敵対関係	関係	独立関係													
徹底抗戦	態度	配慮、慎重													
ま と め	4 本時のまとめをする 秀吉は、様々な条件を考えに入れて、各地の大名への処遇を行い、支配を効率的に進め、天下統一を進めていった。		○ 追究問題を解決できた喜びや学び合いの価値を実感させるために、自分の考えが役に立ったことや友達の見方で考えが深まったことを問い、称賛や価値付けを行う。												
	5 本時の学習について振り返る ○○君の考えを聞いて秀吉の考えが明確になり、見方が広がったよ。														